

# 能楽学ぶ「喜び、感謝」

## 府中・南小児童40人 舞や謡の練習に汗



喜多流大島能楽堂で能楽を習う、府中市立南小の児童ら

府中市立南小学校の6年生40人が先月25日、喜多流大島能楽堂（福山市光南町）を見学しながら、背景の老松の絵や「橋掛かり」と呼ばれる廊下、「目付柱」などの説明に熱心に耳を傾けた。足袋

に履き替え舞台でふき掃除をした後、舞台とけいこ場に分かれ、加藤千絵能楽講師が謡を、大島紀恵能楽講師が舞を指導した。

### 来月「西王母」発表

児童たちは、府中法人会と市教育委員会の

協力で、6月より同能楽堂から講師を招いて能楽を習っている。12人が舞で、28人が謡を担当し、7月までに3回、9月から5回の計8回の講習を受け、10月31日、同市生涯学習フェスティバル（市文化センター）で

「西王母」を発表する。本来1時間の演目を学習能用に構成を変え、出入りを含めて15分程度に短縮して発表。当日は能楽堂より袴などの衣装を借りる。西島恵子教諭は貴重な体験ができる喜びや感謝の気持ちで頑張

っている。講習がある日は毎回体育館を雑巾掛けしていること話す。舞をする稲葉研人君（11）は「夏休み中で忘れているところがあり、友達と歩幅を合わせるのが難しかった。お母さんに見てほしいと意気込む。児童は空いた時間を使って、テープやビデオを見ながら自主練習にも励むという。【岩井敦子】

09/8月 毎日新聞

back